

# 地鳴り

発行・1978年4月

第11号 30円 (1)

## 激動の過渡期世界

米・ソを両極とするヤルタ戦後過渡期世界体制は、相互の敵対を自己の生存条件に組込むことにより、二十数年という驚くべき命運を保ったが、今や、そうした枠組の政治経済的有効性は完全に失われ、資本主義世界・過渡期国家群の総体が相互運動的、血みどろの再編分解過程に入り、革命主体の登場を要している。

「居直り」により、基礎通貨の「義務」を放棄し、資本主義世界の分散化・不均衡を激化している。ドルにも達する対外債務を累積し、カター政権による「人権外交」は、第一に、ポスト・ベトナムの外交政策として、国内外のイデオロギイ的統合策、敗北帝国主義のイメージアップであり、第二に、対外軍事援助の合理化である。在米米軍撤退、SALT II、新メキシコ民間銀行からの借入金、五

文革派は「資本主義への道」を否定したが、その内実を、近代技術の導入は、生産者組織の社会的政治的強化を伴わなければ、革命運動の敵対物に転落した。それがもつ分業体系の中での有機

派を抑制した。こうした文革派四人組の無政策に反発し、経済的に後進な過渡期国家が内外からうける生産力軍力強化圧力に屈服した華國陣

がとつてかわった。文革の「成果」としての革命委も党官僚組織にすぎず、新憲法で全代の持ちあげ

侵入は最終的段階に突入し、円・ロッキを展望するにいたった。とりわけ、内乱的な危機を深かめていく韓国・朴一派を日帝は積極的に支援し朝鮮への侵略反革命を深めている。

人民への攻撃激化  
かくして、日帝は、帝国主義諸国とは通貨・貿易戦争、それゆえ、保護・プロテクト主義を、東南アジア、朝鮮では経済侵略・円圏形成

六十年代の経済成長の基本条件であったIMF・ドル軸体制は、七二年の金・ドル交換停止、七三年の変動相場制への移行によって解体し、世界資本主義の均衡統一の機軸的保証は失われた。

さらに、技術革新が一巡し、後進国石油カラルの確立によりエネルギー価格の上昇(流動性)再分配が生じ、現在の構造的な世界不況時代が到来したのである。

米日独等の帝国主義諸国は、ケインズ政策の公共投資、減税等による有効需要の拡大策をとったが、経済成長の枠組が解体しているため、過剰在庫を減少させるだけで景気回復・設備投資には結びつかず、むしろ、インフレ、国際収支悪化、財政危機を激化させるのみである。

こうして、対応不能の世界的慢性不況が長期にわたる中で、帝国主義諸国は、数度の国際会議を開くが、統一した政策を打ち出せず、結局当然のことであるが不況期の「つけ」を他国におしつける以外になく、いまや市場分割戦・貿易為替戦争に突入している。

カター政権下の米帝は、赤字財政による景気刺激策により国内的矛盾に対応し、それが帰結する数百億ドルの貿易赤字によるドル安・通貨不安に対してビナイン・ネグレクトを決めこんでいる。

ブルジョア中間層を政治基盤とする民主党は、失業の解消・国内均衡を優先させ、通商政策として「無策」ドル安の放置により強い通貨を切り上げに追い込み貿易条件を改善する。ドル本位の放棄には産油国・多国籍企業も容易にはふみきれないことを見越した

世界史的危機下にある日帝は、過渡期国家群をも内包・連動する帝国主義・新植民地主義の再編のり出し、その当面の最大の環として、日帝の侵略交通手段の再編強化・執行権力の強権的再編、三

三里塚廃港・政府危機へ  
日帝・福田は、三里塚三月開港を帝国主義的再編の突破口と目論んでいる。長期不況によるブルジョア統合力の低下を、執行権力の全力を投入することにより回復し、革命的左翼を粉砕しようとしている。七七年5・6岩山鉄塔開打破壊、5・8東山氏射殺、七八年

## 危機を深める日本帝国主義

## 三里塚空港絶対粉砕

「世界の憲兵」たる任務の放棄では決してなく、相対的に低下した経済力のもとで、軍事独裁政権等に民主的色彩をまよわせることにより、より合理的な安あがり遂行する条件づくりなのである。

世界的構造不況は、後進国相互の後進国内部の分極化、階級分化を推進した。ベトナム革命戦争勝利の影響力は、後進諸国の政治経済的発言力を強化し、ドル撤布、先進工業国の赤字財政等による工業製品インフレに対抗しOPEC

こうして、後進諸国は、国内工業資源の有無等により、分極多層化し、相互にも、民族的政治的、対立を激化させ、帝と反帝の対立は、後進諸国間の対立と、さらに、中過渡期間の対立と、相互に連動し、しかも国際通貨還

術的共同体的管理体制、及び都市的自己貫徹性により、生産者に抑圧的に作用する。第二に、党・国家機構における官僚主義化である。革命委員会の「北方領土」等で、反ソ排外主義をとおるにいたった。

は急を告げており、不況下の日帝の最大のプラント輸出市場「救いの神」として登場し、「安保管認」の北方領土」等で、反ソ排外主義をとおるにいたった。

飛鳥田体制は「開かれた党」自主管理の市民社会主義フランソ社会党を自ずすであろうが、協会、反協会対立にボナパリ、結局、社中軸の右派路線にすぎない。また、日共「村田問題」は、

党組織の集約機構化による、選挙型官僚に対する旧指導型組織官僚の敗北を意味している。宮本議長主義は、党内に不満を蓄積させつつ、権力、マスコミ、市民主義にますます屈服して行くであろう。

現在の帝国主義としての危機の深化に対して、社共は、景気対策の不十分さをまくらして、赤字国債、離職者法、労働者大衆の犠牲による資本主義救済を積極的の承認し、帝国主義域内派としての本

## 深化する経済危機

現在、日帝は支出の三〇%を超える赤字国債を発行し、福祉支出を減少させ、そのすべてを公共投資に投入しながらも、世界的不均衡と公共投資の基本産業(鉄鋼、安)の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

配をもち、階級矛盾を激化させている。結局、日帝は「飢餓輸出」を強行し、世界中に失業を輸出しているが、米帝による「ドル安」の反響を被り、労働集約的、エネルギー集約的産業の再編(選択的倒産及び海外侵出の波及効果低下のために、設備

# 貸闘・反首切りの地域共闘を

## 春闘と総評の拡散

総評、中労連からなる「国民春闘共闘会議」は、七八春闘の賃上げ要求基準を次のように発表。  
 「各組合は、昨(七七年)春闘の要求基準(最低15%程度)と闘いの経過を十分にふまえた要求を決定する。その際、不況業種といえども、実質賃金の維持・向上を基本として、賃上げ率12%を下まわらないものとする(「春闘白書」)。  
 同盟は、「標準的な賃上げ要求を、10%、一万五〇〇円(定昇は別)とする」「同盟「賃金白書」(一)との方針を出し、新産別は、「現行世帯賃金水準一八万円と設定し、要求率12%」(「春闘方針」)を打ち出している。

「物価狂乱」の中でつづけない 報告」なるものを発表し、円高と危機意識をもって闘われた七四春闘は、名目三・九%の賃上げを、かつとつたが実質は二・四%に押し下げたこと、七五春闘は名目一・三・一%という低きに押し下げられてきたことを、三年連続した春闘共闘は、これを「敗北」と総括。次いで七六春闘は名目八・八%で、総括は、「二連敗」論。要するに、日経連は、「春闘相場」の成立を否定したのである。

「報告」の特徴の第二は、「過剰雇用論」である。すなわち、「報告」は、賃上げ否定のみならず「企業内余剰人員が百数十万人」として、人への合理化、減量経営を積極的にとらなければならない。七三年秋以降のいわゆる構造不況の深化の中で資本は、春闘に対して「雇用削減」の名目で賃上げをせよ、雇用重視の名目で賃上げをガイド・ポストにおさへこんで来たが、対七八春闘「報告」は、「雇用削減」から「首切り」(「雇用削減金」)から「首切り」(「雇用削減金」)へと攻撃姿勢を強めて、昨年12月14日、日経連は七八春闘にむけて「賃金問題研究委員会」

低連から勤労者家計実質収入は七六年段階で、わずか〇・一%増にまでおちこみ、実質可処分所得にいたってはマイナス〇・九%を示す状態に至り、七七年度もほぼ同様状態を続けている。実質賃金がわずかに上昇しても、失業による家族内有人員減少、物価調整減税なし、社会保障増徴、七年二・五%(毎月勤労調査)と、乃至マイナスイラカれてきたわけである。  
 同盟、IMF・JCCのヘゲモニー粉砕  
 J・C・宮田は昨年、賃上げガマ刺雇用論を公言し、白旗を早々と上げてしまった。総評等春闘共闘指導部は、さすがに宮田発言は非難しながらも、「操短の強化、在庫の累増を目のあたりにして、いまだに七八春闘への確信が湧いてこない」というも実情であり、「春闘白書」とその心情を吐露している。

### 失業、労働強化、生活苦に総反撃を

総評府の労働力調査によれば、七七年7-9月段階で失業者は平均一〇五万人、失業率一・九%、年末段階で二〇余万人、約二%である。  
 一方、労働生産性は、例えば、七六年3月-七七年3月の一年間から七六年1-7月間、七七に全産業一・三%上昇、製造業一・三・七%増加した。一・三・三%上昇を示し、この間、そして、このような人へらし

生産拡大型投資が皆無だった点からして、人へらし労働強化を如何に物語る。また、毎月勤労統計によると、所定内労働時間が、七四年二六一・〇時間、七五年一五八・七時間、七六年一七二・七時間、七七年一六三・七時間へと増加した。一・三・三%上昇を示し、この間、そして、このような人へらし

ては、昨年末、化学エネルギー協との連絡会議設置にまでその動きを挙げている。しかしこの数年、JCCも、「構造不況」「円高」「倒産」の中にあって、六四年発足以来の路線の延長線上に自らを展望しようする事ではなかった。JCC内では七八春闘をむかえる条件がかなり異なっている。にもかかわらず、JCCが動きを強めて来たのはなぜか。この説明は、JCCの本質の解明に直結している。JCCこそは、資本の職場支配の関与である。資本の完全な職場支配の上に築かれた労働代官組織(資本の職制機構・第一労働組)を前提に、これに労働者側内部から対応させる第二労働組織こそが、JCCである。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

### 同盟、IMF・JCCのヘゲモニー粉砕

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

### 公労協、交運ストと地域春闘の結合を

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

### 〈春闘時代〉のおわりと根源的な危機

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。

「問題なのは、プロレタリア階級の労働運動構築は、大衆参加のあらゆる可能性の追求を条件とする。我々は、賃闘をテーマから職場にひきこむこと。我々は、春闘批判として第二に、賃闘理論における階級性の欠如を指摘する。賃金問題が搾取・賃金奴隷制・タロの一契機として積極的に位置づけられず、賃闘が(労働的)に位置づけられない。